

おがわ

小川村ふるさと通信



10/20 小川天文台で紫金山・アトラス彗星を観測！

(写真 公民館主事)

- ・小川村の神社⑦
- ・ここに生まれた
- ・歴史探索 一廃校後の現在一
- ・小川に生きる
- ・図書室だより
- ・人生100年 私の生きがい
- ・通学合宿
- ・路端の小さな命⑧
- ・生活古道④
- ・地域のお宝発見



御射山神社

小根山地区の小川神社の左側に鎮座する御射山神社。この神社の創建は不詳であるとのこと、正殿に建御名方命たてみなかたのみこと、相殿に大日貴命おほひかりのみこと・少彦名命すくなひなりのみことが祀られています。

明治5年太政官布告「学制」発布により小川学校用地（後の小川小学校小根山部校）により現在の地に移転し、明治41年に稲荷神社を除く小根山地域内の神社と共に小川神社の合祀になっています。旧跡地には樹齢九百年以上と

いわれる杉の巨木があり「もりき（杜木）」と呼ばれ地域の「心の拠所」となっています。

この神社では、お盆が過ぎた8月26日は御射山祭の宵祭りがあります。それに併せ奉納短歌が昭和4年小根山青年会主催神社後援で行われたのが始まり、現在は小根山分館と神社が協力しているとのことです。募集した奉納短歌は小川神社回廊に掲げられます。近年は祭日に近



い土日に実施。今年は25日の日曜日に行われました。

この御射山祭、昔から西山地域一帯で行われている伝統行事で、地域に伝わる話について紹介します。

その昔「吉工門きちえもん」という根つからの働きものがありました。毎日、弁当持ちで山へ仕事をしていました。ある日弁当を持って行ったが箸を忘れてきたので「カヤを切つて箸にしよう」と山のカヤを鎌で切つて箸にし、弁当を食べました。仕事が終わり家へ帰るが早く、急に腹が痛み出し、あげたり下したり家中大騒ぎでした。一週間ほどで家中の者はもとより、近所の人達も腹が痛み出し亡くなる方が出る騒ぎ。村人はこれには大変困り、村中で話し合いの結果、行者を頼み易を占つてもらうことになりました。

そのとき、御射山様からのお告げとし、「まず、カヤは8月26日以前に使つてはならない事、そして初めて病んだ人は生のまま異国へ送る事、そうすれば、病気は治まるだらうぞ」というお告げでした。

もともとこの病気は、流行り病で当時は赤腹（赤痢）といっていたものでした。

このお告げのあつた夜、生人を異国へ送るといふことで、大騒ぎになりました。「誰を送るか」毎日その話で村中もちきりなつたのを、吉エ門はこの話を聞いて、「俺が初めの病人だ。神のお告げとあれば、俺が異国へ行きがしよう。」と申し出て騒ぎがおさまりました。

翌朝「六つ時に太鼓で合図するから送ってくださいな。仕度をしておきやすでなあ」と吉エ門は村人達に言いました。

その朝、夜の白々するとき、吉エ門は太鼓の合図で馬に乗り、村人達に見送られ異国へ送られて行きました。その送り旗は、五色の紙に「送り奉御腹の神」と書いた旗を村人全員が持つて見送つたのでした。これにより村人達はまもなく赤腹が治り、村中にまた笑顔が戻ってきました。

それ以降、その村人達は毎年8月26日の夜、当番の家へ集まり、「送り奉り御腹の神」と書いた五色の紙へ村中の戸数を書いて種麻に結び付け準備をし、これに併せてワラ人形と馬をつくり、馬に乗せ、竹の棒にさして送る行事が続きました。この馬



の人形の事を「吉エ門」と言っています。村人達は26日夜、御射山の神様へお参りを済ませ、翌朝、東の空が白々とする頃、太鼓を鳴らし、みんなそれぞれに「腹の神おくれ！」と叫びながら村中をまわり歩いたのです。

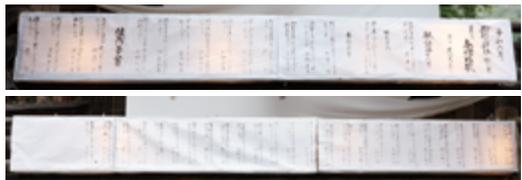
村人達はそれぞれの家で新麻（こじろ麻）を上げて、無病であることを祈りながら、この麻を寿命麻ともいっています。

8月27日朝は、カヤを取ってきて、この日からカヤの箸をつくり朝飯の赤飯を食べるのです。この日からカヤの箸を使つても良いといふこの地方に言い伝えられて言われています。

※カヤには、赤白の穂花があるが、白穂ガヤの箸を使うとされています。

（資料：ふるさとこのころ 西山農協婦人部）
祭日の朝、カヤの箸で赤飯を食べる風習が今でも残っています。近隣で祭事を行っているのはこの神社です。昔からの伝承を地域の文化として見守っていききたいものです。

（参考資料：小川神社の御柱祭）



こころに
生まれました



多くの名前は「睦帆」です。

どい
むっほ
土井 睦帆 (夏和田)



多くの家族を

紹介しよう。

まずパパの雄

士「タケシ」は、

夏は農業、冬は

圧雪車でゲレン

デを整備しているプロスノーボーダーです。

ママの生海「ウブミ」は天使のような笑顔でよくと

遊んでくれたりお散歩に連れ出してくれ、いつも家族

を明るくしてくれる土井家の太陽です。そんな二人の

長男として去年の12月に誕生しました。ぼくが「ムツホ」

です。

約三千字ある中で選ばれたのが「睦」と「帆」である。

睦は友情、おだやか、冬などの願いやイメージ。さらに、

仲良くなる、むつまじいとゆう意味もあって、帆は風、海、

前向きなどの願いやイメージ、風をはらんで船を前進さ

せる、順風満帆などの意味もあるみたいで、この二文字

で「睦帆」。二人は仲睦まじい友人に恵まれ、順風満帆な

人生を進んでほしいと願って命名しようだ。

「素敵な名前をありがとう！」

家族の紹介と名前の話はこ

こまでにして、次は僕が生ま

れた時パパがびっくりしたと

言っていたエピソードをお話

しましょう。

僕が生まれる三ヶ月前に

パパのお父さん、僕にとって

のじいじが心臓の病気で亡く



なってしまうんだ。

そして、三ヶ月後の12月。

雪もチラチラ降り始め

「予定日より早く生まれてきそうだね」とか「仕事

前の休暇中に生まれてき

てくれたら立ち会いもでき

るね」とゆう二人の会話が

聞こえてきたので「よしよ

し！じゃ出るぞ！」っと、予定日より3日早く出てきて

やりました。笑

夜10時陣痛が始まってから生まれてくるまで約17時

間、少し酸素も少なくなつて危なかつたけどやっと二人

に会えた！

「パパ。立ち会い中ママの背中摩つたりしてたけど、テ

ンパつてたね！面白かつたよ。笑」

そして、待ちに待った初対面の時、パパがここでびっ

くりしたと言っていたんだけど、生まれたての僕の顔と、

じいじの顔がそっくりだったんだって。



「親父もむっちゃんの事をお腹で守りながら一緒に出てきてくれた」ってパパは思えたし、少しの時間だったけどまた親父に会えた。

抱っこしてもらおう事は叶わなかったけど、それ以上の事をしてもらえたって思えて、引っかかっていた気持ちがスツと落とし込めたって。

じいじに似ていたのは本当に少しの間で、時間が経てばママ似の顔に！笑

不思議な事もあるもんやなあ〜っと しみじみ思ったようです。

今僕は元気にスクスク成長中！

体重も10キロ近くあり、むちむちのむっちゃんです。

ママとパパのもとに生ま

れて、ここ小川に3人で暮

らせて幸せだ！

ここに生まれて良かつ

た！

そうー僕の名前は「睦帆」

です。



歴史探索

「廃校後の現在」

7月のある日、公民館図書室を訪れた学生がいました。利用目的を確認したところ、廃校になった学校の場所を確認し、自分のブログに載せたいと熱心に調べ始めました。出身は新潟県で、大学の夏休みを利用して新潟県内を調べつくし長野県内を調べに来たというので、小川小学校開校で廃校になった場所を教えました。スマホで必要な情報を得られるなか、わからない情報を訪ねて来るには珍しいなど、学生さんに刺激され、廃校になった跡地が現在どうなっているか探索してみました。

☆昭和の合併前に廃校

○沢入分教場（第4分教場）

北小川村と南小川村が昭和30年4月1日の合併前に、合併問題と関連して児童の南小川小根山分校への委託協議の結果、昭和29年7月17日に廃校が決まり、同年8月17日に廃校式が行われました。明治25年に沢入分教場として開校し、第4分教場に改称し、63年間にわたり古山西地区の児童を受入れていました。廃校後、建物は平成の初めまで選挙の投票所として、地元集会として利用されていましたが、現在草木に覆われ小高い丘の上に建物が残っています。

☆昭和の合併後に廃校

○久木分校

昭和38年3月に閉校した久木分校。明治13年に久木支校として開校し、久木分教場、久木分校に改称し、83年間にわたり久木地



沢入分教場

区の児童を受入れていました。廃校後、「久木区生活改善センター」が建ち、敷地に記念碑が建っています。

○北畑分校

昭和43年3月27日に閉校式が行われた北畑分校。明治6年法蔵寺衆寮に瀬川学校が開設されたのが北畑分校の前身ではないかと思われます。明治24年北畑支校として開校し、北畑分教場、第2分教場、北畑分教場に改称し、昭和32年に小川南小学校の分校に移管されます。77年間にわたり古山東地区および川手地区一部の児童を受入れていました。廃校後、「法蔵寺墓地」として墓石が建ち並んでいます。

○花尾分校

昭和46年3月27日に閉校式が行われた花尾分校。明治7年に花尾支校として開校し、花尾分教場、花尾分教場に改称し、97年間にわたり花尾地区の児童を受入れていました。廃校後、「花尾区生活改善センター」が建っています。

☆統合前に

○昭和48年度「小川小学校」として

新校舎が完成するまで、旧本校、分校が廃止され「部校制」が適用。



花尾分校



北畑分校



久木分校

小川南小学校 ↓ 小川小学校南部校
 小根山分校 ↓ 小川小学校小根山部校
 小川北小学校 ↓ 小川小学校北部校
 日本記分校 ↓ 小川小学校日本記部校
 桐山分校 ↓ 小川小学校桐山部校

☆昭和50年4月 小川小学校開校とともに5部校閉校
 ○小川小学校南部校

明治7年2月に竹生学校として開校し、高府学校、小学高府学校、小学尋常高府学校、南小川尋常小学校、高府尋常小学校、高府尋常高等小学校、戦時中は南小川国民学校、終戦後は南小川小学校、合併後は小川南小学校、統合前に小川小学校南部校に改称し、南小川地区の本校として児童を受入れていました。開校100年目の節目に廃校になりました。廃校後は現在の小川小学校が建っています。

○小川小学校小根山部校

明治7年5月に小川学校として開校し、小学小川学校、小根山支校、小根山分教場、小根山尋常小学校、小根山尋常高等小学校、小根山分教場、小根山分校、小川小学校小根山部校に改称し、小根山区域の児童を受入れていました。開校100周年の節目に廃校になりました。廃校後、「小根山生活センター」と「旧小根山保育所」が建っています。



小根山部校



統合前の南部校

○小川小学校北部校

明治6年12月に瀬川学校として開校し、瀬川南学校、瀬川学校尋常科、北小川瀬川簡易学校、北小川尋常小学校、戦争前は北小川尋常高等小学校、戦時中は北小川国民学校、終戦後は北小川小学校、合併後に小川北小学校、統合前に小川小学校北部校に改称し、北小川地区の本校として児童を受入れていました。開校100周年の節目に廃校になりました。廃校後、「瀬戸川集会所」と「くつろぎの郷」が建っています。

○小川小学校日本記部校

明治8年6月に高山寺支校として開校し、稲丘学校、稲丘支校、稲丘簡易小学校、飯米場支校、飯米場分教場、第1分教場、日本記分校、小川小学校日本記部校に改称し、99年間にわたり稲丘東西、法地、上北尾区域の児童を受入れていました。廃校後、「アルパンドーム」が建っています。

○小川小学校桐山部校

明治7年2月に桐山支校として開校し、桐山派出所、桐山支校、桐山分教場、第三分教場、小川小学校桐山部校に改称し、桐山、川上地区の児童を受入れていました。開校100周年の節目に廃校になりました。廃校後、更地に「携帯電話中継基地局」が建っています。

(参考資料：小川村史、縮刷版館報おがわ)



桐山部校



日本記部校



北部校



戸谷 公次さん
(古山東出身)



「1ヘクタールはあるかな。30年前は荒れた農地だったが、55才の時に生まれ育った小川で桃やブドウなどの果樹を栽培できることを実証したくて開墾した。今では10種類(50品種)の果物を作っているよ。」と満足気に話してくださったのは、果樹一筋60年。午年生まれの82才戸谷公次さん。一年のうち300日近く、住まいの長野市篠ノ井から古山の果樹園に足を運び作業をしています。

戸谷さんは古山東地区西戸谷地籍生まれ。元々ご両親は養蚕業を営んでいましたが、昭和30年代に養蚕業が行き詰まり村内でりんご栽培が広がりをみせ、戸谷家もりんご栽培を行うようになったそうです。その影響を受け、公次さんも須坂市の果樹試験場内にある農業大学校を就

学後、共和園芸農協に入り技術員として9年間活躍しました。その後、昭和43年に長野県内の果樹専業農家の組織「財団法人長野県果樹研究会」を設立。多い時で2000人以上の会員がいたこの会で、27年間果物指導部長として指導にあたったそうです。小川村でもりんご農家を中心に栽培指導をされたそうです。

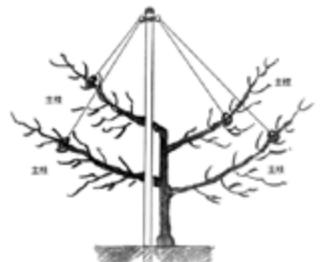
また、戸谷さんは「戸谷式整枝法」と呼ばれるりんごの半わい化栽培を考案し実践した第一人者。半わい化栽培では「小川の父」と呼ばれています。

半わい化栽培とは、りんごは

従来、「開心形の普通栽培」と「主幹形のわい化栽培」に分けられますが、戸谷さんが考案した半わい化栽培はちょうどその二つの栽培技法の中間で、枝が高くならず横に広がるため作業や収穫がしやすいのが特徴。そしてこの栽培技法のメリットとして「園地、土壌条件の適用範囲が広い」



半わい化栽培 (開心形)



リンゴの主な栽培方式

栽培方式	台木	樹形	栽培密度 (10a当たり)	成圃化 年数
普通栽培	マルバカイドウ	開心形	10~20本	15年以上
わい化栽培	わい性台木	主幹形	150本	7年
半わい化栽培	わい性台木	開心形	40本	7年
戸谷式整枝法				
密植栽培	強いわい性台木 (M9自根)	主幹形	150~300本	5年

「高品質で商品化率を上げることが可能」、「誰にでもできる簡単な技術として応用できる」などが挙げられます。この栽培技法は全国的にも話題となり、農業雑誌や新聞等にも紹介され、10年ほど前までは、日本全国から年間五十組ほど視察に訪れたそうです。また、山形県村山地方の朝日町では、リンゴ栽培技術に「戸谷式整枝法」を全面的に取り入れているそうです。

果樹栽培一筋で今までやってこられた戸谷さん。「果樹は手間暇かかるが苦勞と思つてやってきたことはない。60

年もやっているとポイントもわかる」「果物づくりは楽しい」と言い切ります。そして、「小川でも果樹栽培で生計を立て自立した生活ができる」とおっしゃいます。そう断言できるのはご自身の経験からです。「楽しんで日本で旅行に行つてゐる。クルーズ船にも乗り、10日間の船旅をこれまでに2回ほど楽しんだかな。野球も好きでWBCの試合も

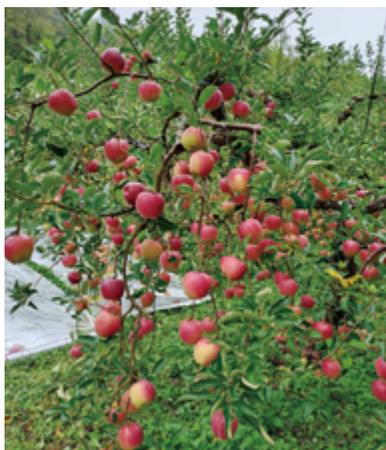
見に行つたよ。

こうやって旅行できるのも果樹栽培をやつてゐるおかげだね」と笑顔で教えてくれました。

当初、奥様と二人で始めた果樹栽培。10年ほど前から、親戚の方々にも手伝つてもらつてゐるそうで、現在は、さんさん市場を含む長野市や白馬にある4か所の直売所に果物を出荷しているそうです。

そして、2年ほど前から戸谷さんの後継者として甥っ子がリンゴ作業にあたつており、戸谷さんはブドウ栽培に力を入れてゐるそうです。

「果樹は永年作物。死ぬまで植えることもできるし、新品種も作れる。果樹栽培を取り入れた親にも感謝している。果樹栽培を選んで、最高の人生だった」と戸谷さん。最後に「定年になったら是非、百姓（果樹栽培）をやつて欲しい。やりたい人がいればいつでも訪ねてきて欲しい」と生涯現役で果樹栽培の普及に取り組み意欲を覗かせていました。



「いいだ人形劇フェスタ」に行こう！

2024

無事に終了しました



8月2日、7時25分。小学生15名がリュックサックを背負い、小川村公民館へ集結しました。夏休み中だったので、久しぶりに友達と再会して、朝から興奮気味の面々。早速マイクロバスに乗り込み、飯田市へ出発です。公民館職員、図書委員が引率して向かった先は、いいだ人形劇フェスタです。日本最大の人形劇の祭典で、全国、世界から約300劇団が集まり、

川村へ戻りました。今回は3つの人形劇を鑑賞しました。印象的だったのは、台湾人形劇（西遊記の一話）を中国語と日本語字幕で鑑賞したことです。台湾中学生の人形捌きと勢いあるドラ等を使った生演奏は圧巻でした。前列まで自ら動いて見入っていた子、音の大きさに驚いて耳を塞ぎながら後方で鑑賞していた子もいました。往復のバス内でも存分に友達と交流し、夏の思い出と笑顔共に夕方小



4日間かけて400以上の公演が行われます。来場者は延べ4万人で、私達も韓国や台湾から鑑賞に来た制服の子ども達を数団体見かけました。

図書室の楽しみ方

～私のお気に入り～
漫画コーナー

公民館図書室の一角には、ちよつと懐かしい、けれども、名作が揃った漫画コーナーがあります。その中で、今回オススメの一冊が「岳」です。（最近、映画でも話題になった「BLUE GIANT」の作者石塚真一先生のデビュー作）山岳援助についての話で、読んでいる時は「山怖い、山行きたくない」と思うのですが、読み終わると「山に登ってみたいな」と思うのですが、読んです。山と命に懸命に向き合う人々の物語が、いつも眺めている北アルプスをまた違った景色に見せてくれるかもしれません。



「岳」シリーズ。このほか、映画やアニメで知っている漫画もたくさん置いてあります。



漫画の神様と呼ばれた手塚治虫をはじめ、名作もたくさん揃っている。親子三世代で楽しめる。

只今準備中 冬のイベント お知らせ

今年の冬も、小学生を対象にした読み聞かせとお楽しみのミニイベントを計画中です。ワクワク気分のクリスマスシーズンをみんなで楽しみましょう！12月に開催予定です。詳細は後日配布のチラシをご覧ください。

ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ 本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は？』

令和5年7月から令和5年12月生まれの赤ちゃん

『はらぺこあおむし』
エリック・カール



田代 愛芽 ちゃん
たしろ ひなた

『14ひきのシリーズ』
いわむらかずお



土井 睦帆 くん
どい むつほ

「人との関わりを大切に」

大日方 弘子（美会）

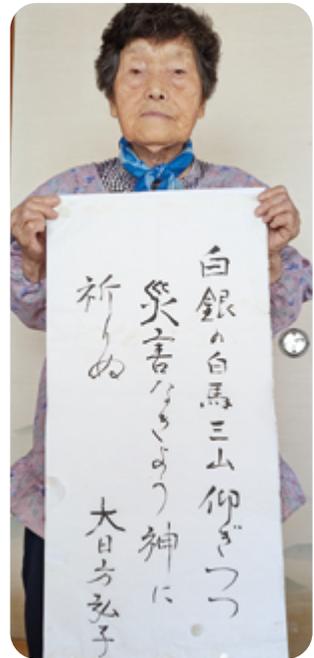
美会にお住いの91歳の大日方さん。「認知の予防に」と、様々な活動に参加し、活き活きと毎日の生活を楽しんでいます。そんな大日方さんの元気な秘訣は何かお話を伺いました。

大日方さんは8人兄弟の長女として生まれ、小さい頃から兄弟の面倒をよく見ていたそうです。「昔は子どもが家のことを手伝うのが当たり前。」学校から帰ると親の手助けに下の子をおんぶしながら勉強をしていたと話されました。

結婚し美会へ嫁いで66年間、最初は牛の世話など家の仕事もこなしながら3人の子どもを育て、隣近所数軒でホップ栽培など共同作業したそうです、

「苦労も多かったが家族や近所で支え合って生活していた。」と当時を懐かしく振り返っています。

子育てから手が離れたころには、地元の会社で定年まで勤め、景気の



いい時期に働けたおかげで、いろんな場所へ旅行が出来たことが良い思い出になっているそうです。今でも兄弟8人健在で会話や仲間とお出掛けなど、人とのふれあいを楽しみにしているなかで、月1回の小川短歌会や週1回のずく会への参加など、カレンダーは予定でびっしりです。

小川短歌会は亡夫・一智さんが長年会長を務め、17年前に亡くなってから代わりに出席するようになり、今も楽しみながら短歌に親しんでいます。

「今こうして生活できることはありがたい。」と、若い時期に苦労した経験があるからこそ現在感謝の気持ちを持てられない姿勢が印象的でした。「人に会って話すことがいちばん。」仲間や子ども達と会って話をするのが大日方さんの大きな楽しみ、そして生きがいとなっています。

瀬戸川・法地



染野利喜雄 (二反田)
(元郵便局員)

※軍社会になる前まで、毎日使っていた細い生活道路を、生活古道として紹介します。

前号に引き続き、昭和40年前後の地域で使われていた生活道路について、毎日郵便配達をした染野利喜雄さんに詳しくお話を伺いました。

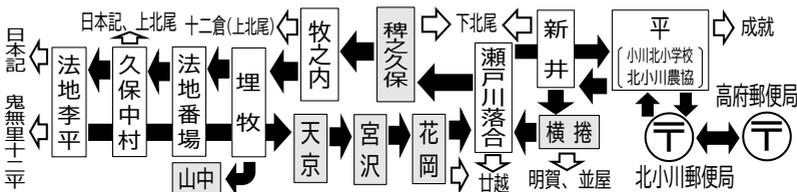
朝8時に高府郵便局に出局、北小川郵便局まで自転車で行く。向かう前に鞆にハガキ、封筒、新聞のほか、補助袋、小包を整理し持って行きます。

北小川郵便局に必要な郵便物等を納め、局周辺の小川北小学校、北小川農協及び平から「郵便でくす」と配達をはじめます。川を渡って新井、対岸の尾根を登って横捲、下って瀬戸川落合の右沢筋に沿って上流を目指します。途中で稗之久保を上り下り、牧之内から埋牧へ配達し、山中への配達に約40分かけて往復しますが、冬期間(12/15〜3/15)は雪の影響で配達が困難なため、埋牧集落外れの軒先に郵政省指定の郵便箱を設置し、郵便物があれば連絡を取り扱ったとのことです。埋牧を過ぎて法地区に入ります。法地番場から久保中村、法地李平と瀬戸川の上流、

瀬戸川神社まで上ってきます。この神社の裏は分水嶺で鬼無里十二平の水力発電所があった昔からの沢筋古道に辿ります。上流まで上ってきた道を埋牧まで下ります。途中から天京まで上り、山の等高線に沿って宮沢まで行き、沢筋に沿って花岡まで上ります。山の細い尾根沿いを通り瀬戸川落合まで下り北小川郵便局まで戻り、集まった郵便物を16時30分までに高府郵便局まで持ち帰りました。



配達コース (塗り潰しマスは、住居人がいない集落)



通学合宿

9月29日～30日にかけて小川村公民館で「通学合宿」が開催されました。小学校4年生以上の児童を対象に募集し、参加者は男子4名の4年生で1泊2日の合宿が始まりました。

1日目。布団を持参し公民館に集合。食材はお店の都合で飲み物を調達。夕食づくりは説明会で決めたカレー作りに玉ねぎを切るに涙が…。日赤奉仕団の方の協力を得て包装食袋を使ったご飯の炊き出しの体験を行い、夕食はカレー・サラダをたくさん作ったので苦しそうに食べていましたが、デザートフルーツポンチはしっかり食べて満足しようです。夕食後は後片付けをして、くつろぎの郷のお風呂に行き、公民館に戻ってニュースポーツ「スコエアポッチャ」を体験後に、暗い公民館内を肝試し、映



「画鑑賞「ハロウィーンタウン」」を見て、9時半には消灯で眠りにつきました。
2日目。5時半に起床でしたが、ラジオ体操で眠気を吹き飛ばし、元気に登校していきました。授業が終わると公民館に下校し、片付・掃除、反省会を行い、通学合宿は終了となりました。
親元を離れ異学年の集団で衣食住を共にする取り組みは5年ぶりの開催。次回は大勢参加することを期待します。

【日程表】

9	13:00	公民館集合
9	13:10	はじめの会
/	13:30	買い物(徒歩)
2	15:00	夕食準備
9	◎福祉教室…炊き出し体験	
(一)	17:00	夕飯・片付
目	18:00	お風呂(くつろぎの郷)
目	19:00	ニュースポーツ体験
目	20:00	映画鑑賞
目	21:00	就寝準備
目	21:30	消灯
9	5:30	起床
/	5:50	朝食準備
3	6:30	朝食・片付・登校
0		
(二)		授業終わり次第、公民館へ下校
日		片付け・掃除
目	16:30	反省会
目	17:00	終わりの会
目	17:30	解散



地域のお宝発見

念仏講 (おぎのくぼ 萩之久保)

地域のお宝として、春・秋のお彼岸
の中日に美会地区萩之久保で念仏講の
活動している現場を伺いました。

大きな数珠を回しながら

「なんまいだ（南無阿弥陀仏）」と
唱える。

秋の彼岸、お堂の「延命地藏」にお
供物とロウソクを灯し、大きな数珠の
周りを輪になり、輪の内側に御講の当
番が入り鉦を打ち鳴らし、「南無阿弥陀仏」を皆で唱えな
がら、先祖供養のほか、家内安全、無病息災の御利益を願ひ、
房が付いた大きな珠を拝みながら数珠を回し、講中の減少
や当日参加できない方がいるなか7人で行われました。

昔は女性が主体、現在は男女問わず講中が協力し合い
行っていました。御講の後はお茶を飲みながら話をする「お
茶っこ」（お茶講、お茶会）。自家製の料理を持寄る重箱は
なくなり、当番が用意した茶菓子で身近な世間話で交流



を深めていました。

時代とともに…

同じ彼岸日に、上野地区鶴牧田でも行われていました。一
年前は夏和和田地区でも行われていましたが、講中の高齢
化で地域の活動が一つ消えました。古老から葬儀や通夜な
どに会葬者と念仏講員で仏の供養をしていたと聞いた記憶
があります。もしや各地区のお堂に使われた大数珠が人の
記憶から忘れられホコリに埋もれているかもしれません。

念仏講の成り立ち

「南無阿弥陀仏」と唱える事によって、すべての人が死
後に極楽へ行けるといふ浄土宗の教えが、平安末期から鎌
倉にかけて民衆に普及。空也(くうや 空也(空也念仏)から良忍(りょうにん 融
通念仏)へ、一遍(いつぺん 踊り念仏)へと展開し、遊行上人(ゆうぎやう 融
どの活動で民衆へ浸透。法然(ほうねん 親鸞(しんらん 親鸞などの宗教団体が民
衆に普及。近世の江戸中期に諸国を
遊行して広めた浄土宗の僧 徳本行者(とくほん 徳本行者
が信濃路に入り、小川村に影響した
のではないかと考えられるが、いつ
頃始めたかは不明です。



路端の隅でたたずんでいる動植物や石造物等について紹介します。このコーナーに情報を提供したい方は公民館まで一報ください。

命を繋ぐ井戸水

☆通行人の憩いの場

成就四久保バス停のそばに、井戸の余水を溜めている用水があることをご存じですか？蓋で覆われており普段は目につくことはありませんが、村営水道が竣工する40年以上前から、杓子で通行人の喉を潤す憩いの場を提供していました。井戸の持ち主に話を伺いました。



☆生活用水として

屋敷の隣に井戸を掘り、底に溜まった水で飲用水やお風呂、洗濯など生活に関わる全ての水をこの井戸から得ていたとのこと。また、この井戸の水は、生活用水での利用以外にも身の周りを清潔に保つことや病気を予防する衛生面にも一役担っていました。

☆井戸水が医療を支えた

今から60年前の昭和39年まで、この井戸の隣に診療所があったことをご存じですか？今は、長野市安茂里差出で診療している「金木医院」です。当初はこの井戸の持ち主 和田久助医師が診療所を開業

しましたが、金木医院も縁あって4、5年間この場所での診療を行いました。金木医院が診療を行う前の約5年間は4人の医師が代々診療をしていたそうです。開業当時の井戸の水量では診療を行えないため、横井戸で必要な水量を確保したと伝えられています。きれいな水は汚れた患部を消毒することが出来るため、伝染病予防に一役担ってきました。きれいな井戸水を利用し衛生的に努めることで、病を克服しました。

☆湧き出る水で：

常に湧き出す水は、井戸の余水として、用水を流れて池を満たしました。さらに下流の田んぼの水源として、有効活用されてきました。

用水は道を通る人の潤いの場として活用され、池には鯉が放たれて疲れ切った医師の心身を癒しました。井戸水を利用した米作りは当時の食生活の豊かさを表していましたが、時代とともに田んぼは道路改良で役目を終え、今は跡形も無くなっています。唯一残った池のふちにはトノサマガエルが今年の暑さをしのぐように泳いでいました。

